



TEAM白旗小

**ふるさとを愛し 夢に向かって
主体的に学び続ける 児童の育成**



甲佐町立白旗小学校
学校通り 第23号
令和6年2月20日発行
文責：原田加代子

2月の全校集会で伝えたこと

私には、ずっと忘れることのできない出来事があります。それは、33年前の初任1年目で、担任している2年生の子供を交通事故で亡くしたことです。知らせを聞いて病院にかけつけました。手術室から出てきたその子の小さな体、懸命に生きようとしていたその子の姿、その子が元気になるよう毎日願いながら、その子が好きな歌を毎日、毎日、一生懸命歌う学級の子供達の姿は、今でも忘れることができません。

お葬式の時、その子のお父さんが次のような話をしてくださいました。

むすめは、8さいでなくなりました。もっともっと友だちと遊んだり 勉強したり好きなごはんを食べたりしたかったと思います。大きくなって、だれかを好きにもなることも もう かないません。もっともっと生きたかったと思います。どうか、むすめの分まで 生きてください。

話を聞いた白旗小の子供達は

- ・事故で頭をぶつけるから、自転車に乗るときは、ヘルメットをかぶらないといけないと思いました。
- ・命は大事。命をなくさないように、頑張りたいと思いました。
- ・とてもやさしくて頑張る人だったのに、亡くなったのが悲しい。だから、友達の命も、家族の命も大切にしようと思いました。
- ・自分の命は自分で守れる行動をしたいです。
- ・38人の2年生の子供達が、元気になるように毎日歌を歌っていたのが、仲間思いだなと思いました。
- ・お父さんの言葉の通り命を大切にしようと思ったし、しっかり生きていきたいです。

など、自分の考えを伝えたり感想を書いたりしてくれました。

子供達には、「命は当たり前にあるのではなく、かけがえのない尊いもので、大事に守っていかないといけない。自分も周りの友達も大事にしていきたい。」と、この話を思い出した時に、自分を振り返ってくれたらと思います。

私も、この子が教えてくれたことを大事に、精一杯、生きていきたいと思っています。

「自分たちにできることを」～募金活動を通して～

1月1日に発生した能登半島地震。自分たちができないことはないかと考えた児童会執行部が、全校児童に募金を呼びかけてくれ、2月14日～16日までの3日間で、募金活動を行ってくれました。

14日の朝、児童玄関に行ってみると、各家庭から募金を持ってきた子供達が、募金箱に次々と募金を入れる姿がありました。

子供達、ご家族の皆様のご協力により、3日間の合計は、28,100円でした。

集まった募金は、被災地の困っている方々や子供たちへ使っていただければと思います。ご協力、本当に、ありがとうございました。



